



外傷サーベイランス委員会



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

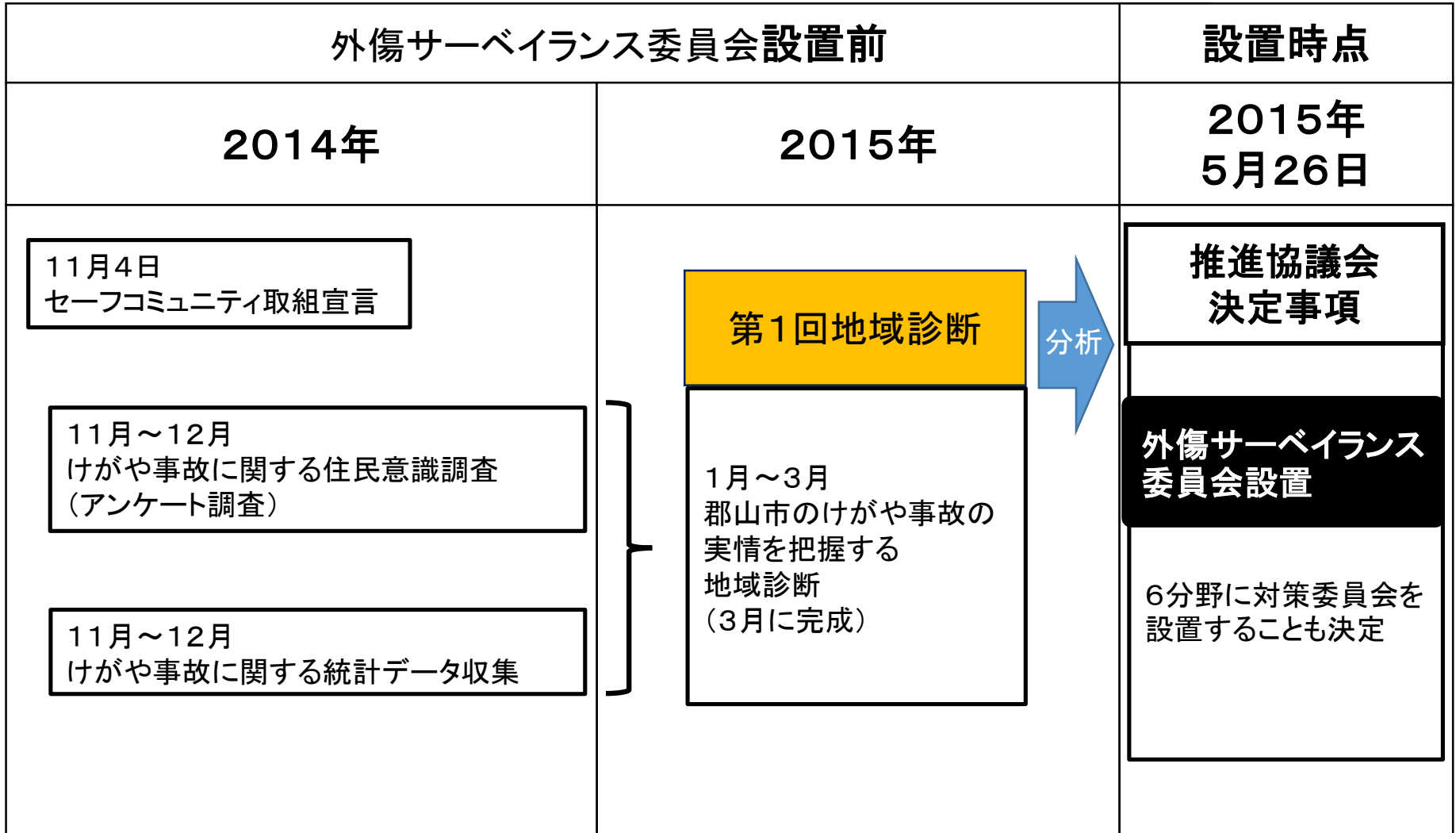


報告者 委員長 寺西 寧



1 外傷サーベイランス委員会設置までの流れ

図1





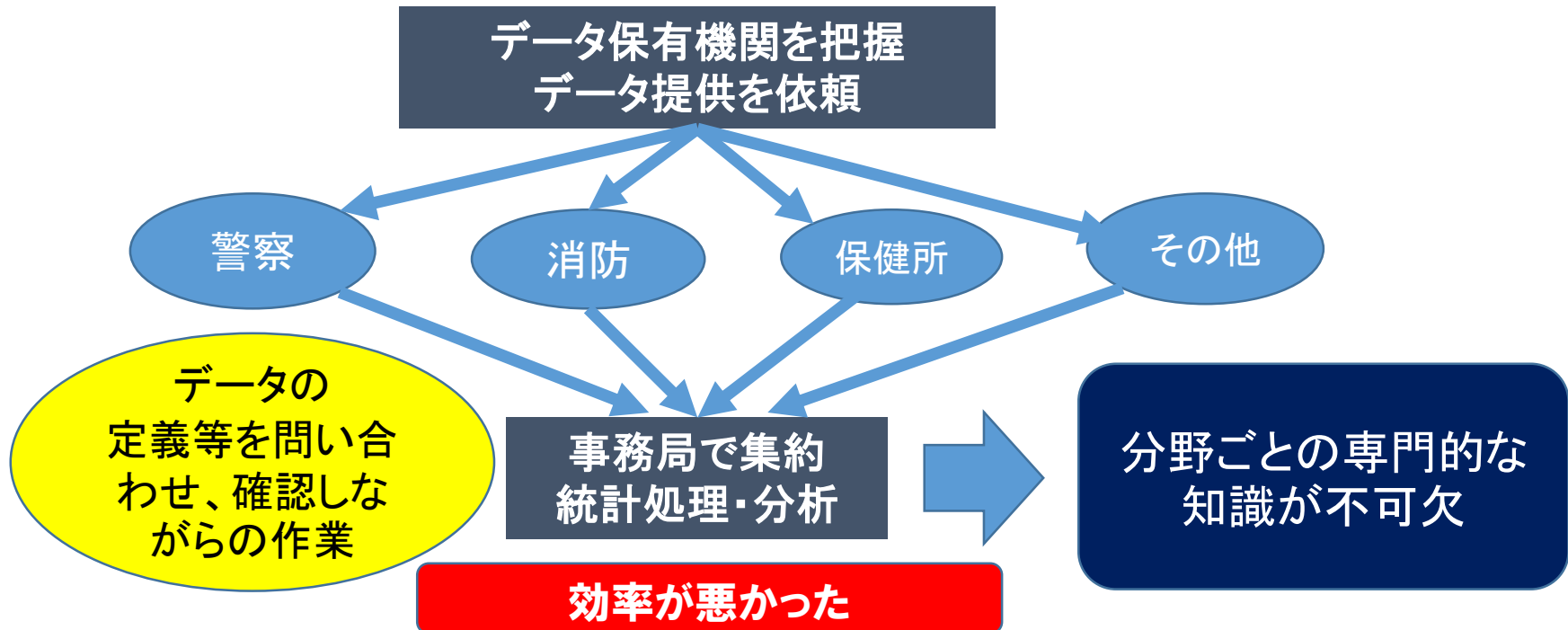
2 外傷サーベイランス委員会の必要性

必要性① データ収集と分析を効率的に実施するため

2014年に実施した「第1回郡山市のけがや事故の実情を把握する地域診断」は、**事務局(市のセーフコミュニティ推進室)**が実施したが**作業効率が悪かった**。

事務局だけでデータ収集、分析を実施
(市のセーフコミュニティ推進室)

図2





必要性② 継続したデータ収集、分析を行うため

7つの指標

指標1. さまざまな部門・分野の人たちが連携・協力し合う仕組みを整え、まちぐるみで取り組むこと

指標2. すべての年齢・性別・環境や状況を対象として、長期的・継続的に取り組むこと

指標3. 見守りや手助けが必要な人、被害を受けやすい立場の人・環境・状況にも有効な取り組みをしていること

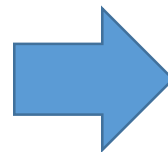
指標4. 根拠に基づいた取り組みをしていること

指標5. けがや事故を記録する仕組みがあること

指標6. 取組及び効果・影響を評価するための評価基準があること

指標7. 国内外のセーフコミュニティ間の情報交換や交流の場に継続的に参加していること

指標4から6を継続的かつ効率的に実施するためには、事務局だけでは不足



外傷サーベイランス 委員会設置

セーフコミュニティ推進協議会決定
(2015年5月)



3 外傷サーベイランス委員会の役割

役割1 けがや事故のデータ収集及び分析(指標4、指標5)

- 発生件数等のデータ収集と継続可能な体制整備
- 全国、福島県、郡山市の比較
- 年代間での比較、地域間での比較 等

役割2 セーフコミュニティ活動の検証(指標4、指標6)

- 活動の根拠となるデータは適正か？
- 活動の効果測定方法は適正か？
- 指標の設定は適正か？ 等

役割3 データに基づくセーフコミュニティ活動への助言 (指標4、指標6)

- 推進協議会、対策委員会に助言を行う。



表1

3 外傷サーベイランス委員会の役割

2014年	11/4 SC取組宣言	第1回地域診断
2015年	5/26 SC推進協議会設立 <div style="border: 2px dashed black; padding: 5px; display: inline-block; margin: 5px 0;">外傷サーベイランス委員会設置</div> 7/8 分野別対策委員会設置	
2016年	11/7~9 事前指導	第2回地域診断
2017年	11/8~10 現地審査	効率化
2018年	2/2 国際認証取得	第3回地域診断
2019年		
2020年	※新型コロナウイルス感染拡大	第4回地域診断
2021年	11/15~16 事前指導	
2022年	11/8~10 現地審査	第5回地域診断



4 外傷サーベイランス委員会の構成

図3

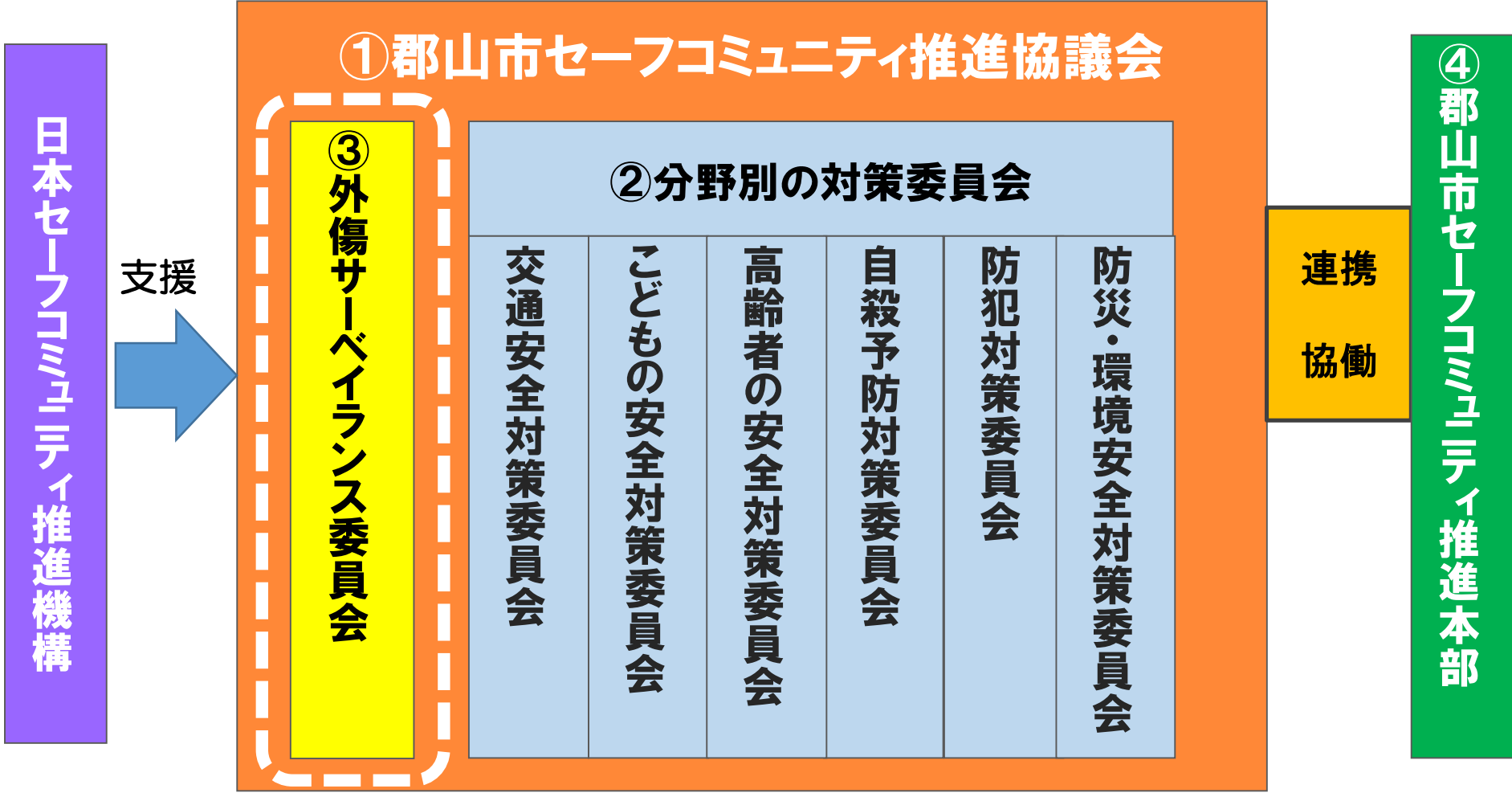




図4

4 外傷サーベイランス委員会の構成

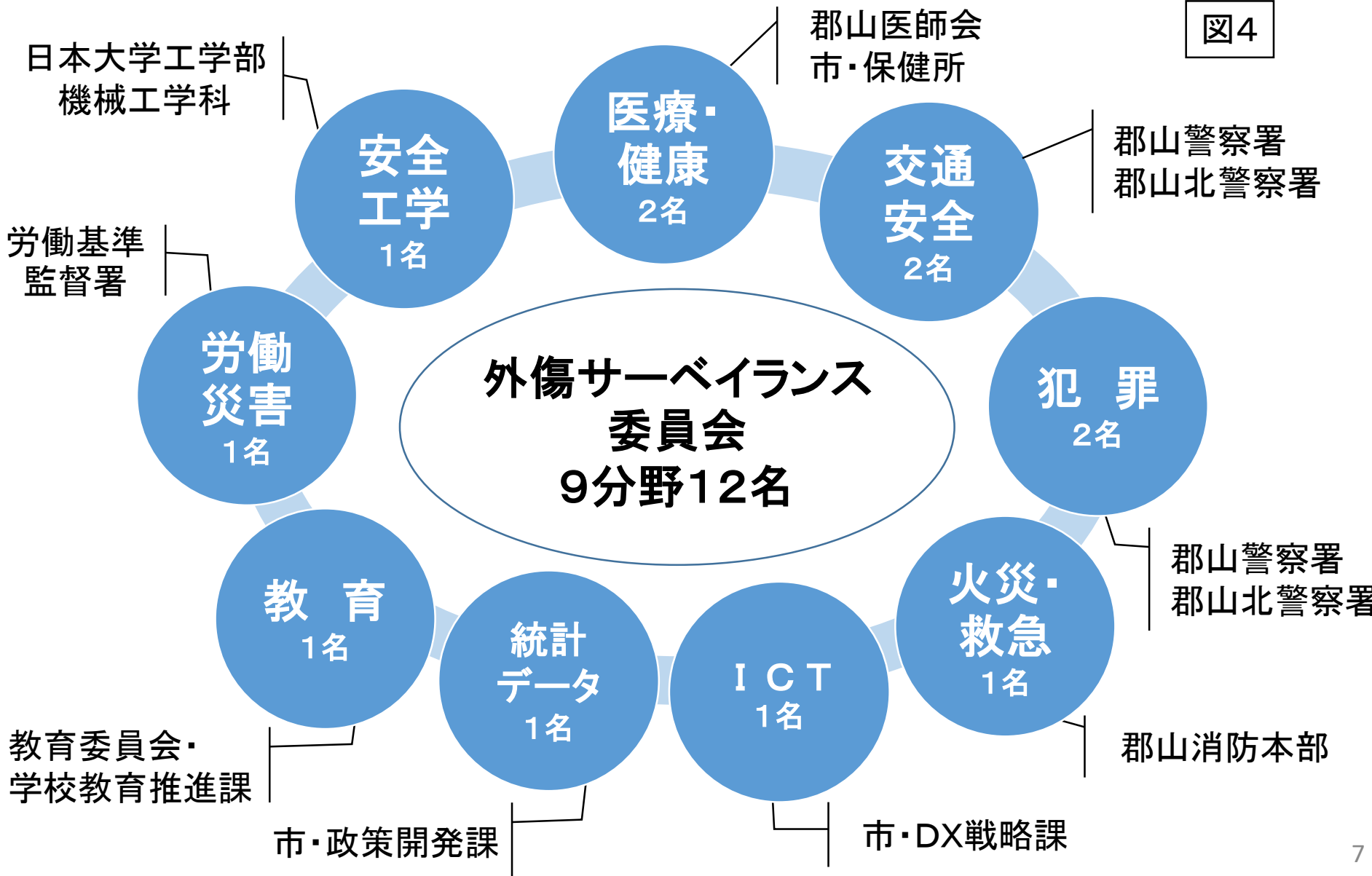




表2

4 外傷サーベイランス委員会の構成

委員名簿

分野と所属			職名
1	医療・健康	郡山医師会	副会長
2	安全工学	日本大学工学部	機械工学科教授
3	労働災害	郡山労働基準監督署	安全衛生課長
4	交通事故	郡山警察署	交通第一課長
5	犯罪	郡山警察署	生活安全課長
6	交通事故	郡山北警察署	交通課長
7	犯罪	郡山北警察署	生活安全課長
8	火災・救急	郡山消防本部	消防署長
9	統計データ	郡山市	政策開発課長
10	I C T	郡山市	D X 戦略課長
11	医療・健康	郡山市保健所	総務課長
12	教育	郡山市教育委員会	学校教育推進課長



図5

4 外傷サーベイランス委員会の構成

委員は個人として参加するだけではなく、配下のスタッフを指揮してデータ収集、分析を行います。

外傷サーベイランス委員会

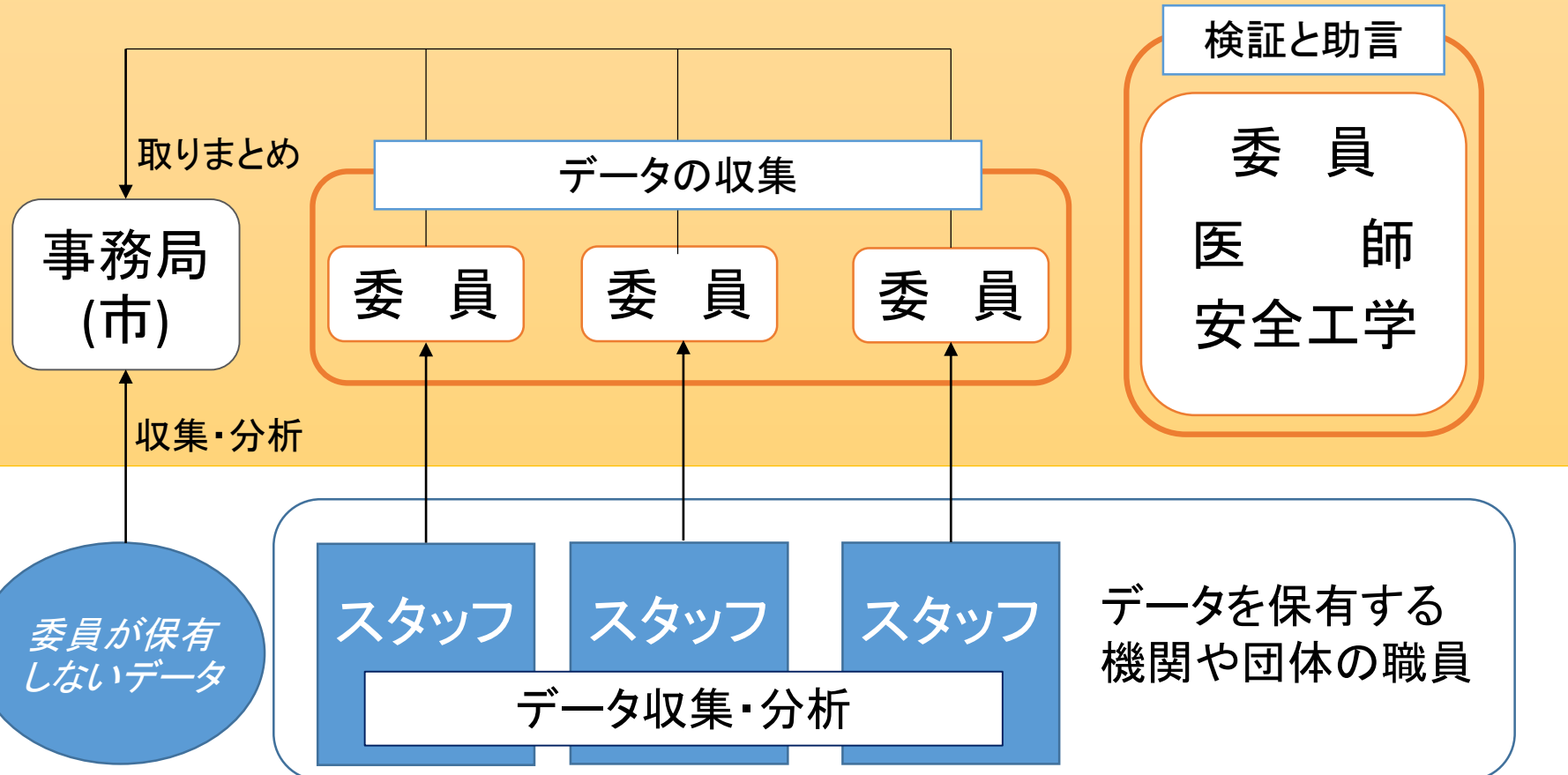
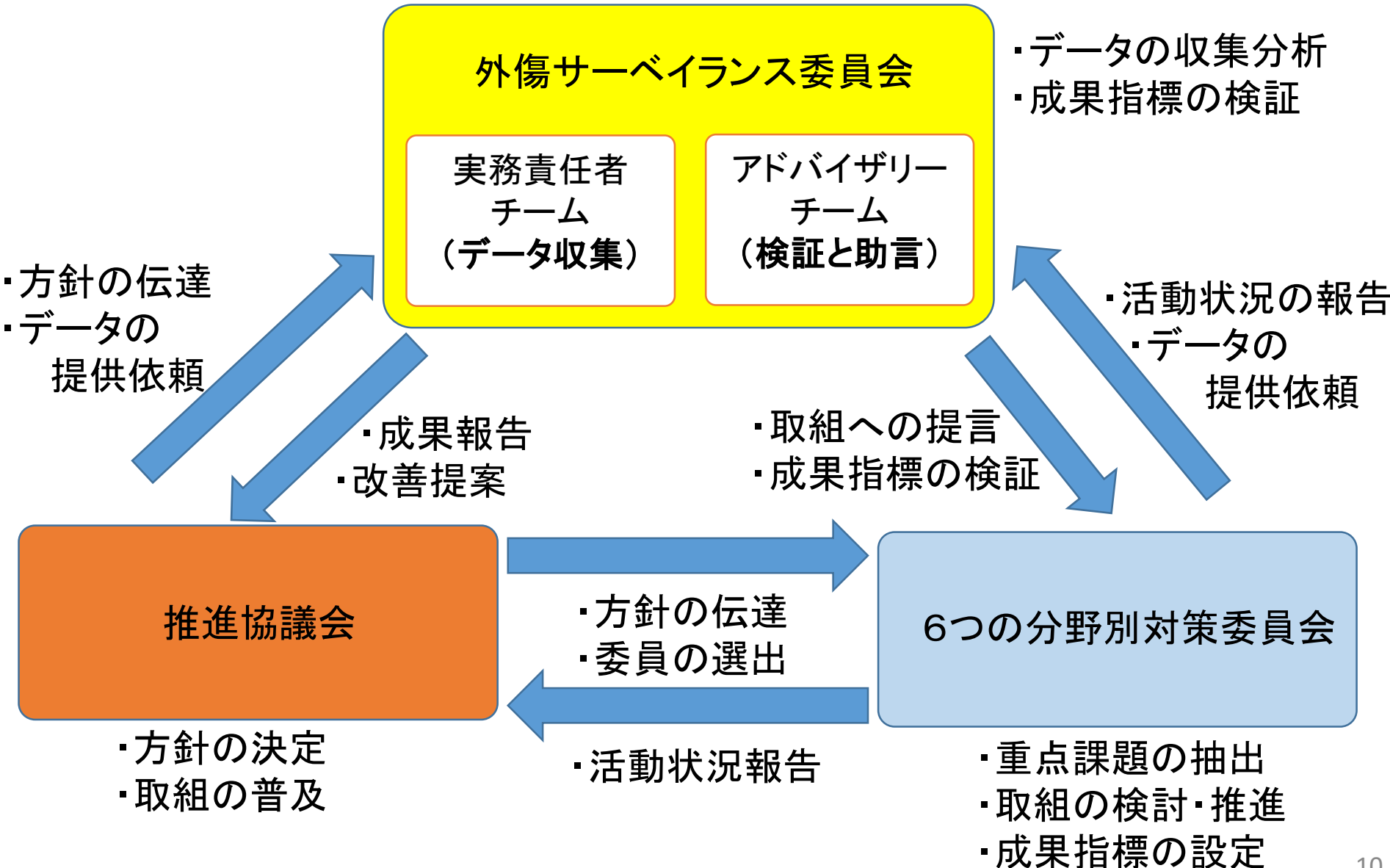




図6

全体の役割関連図





5 データ収集について

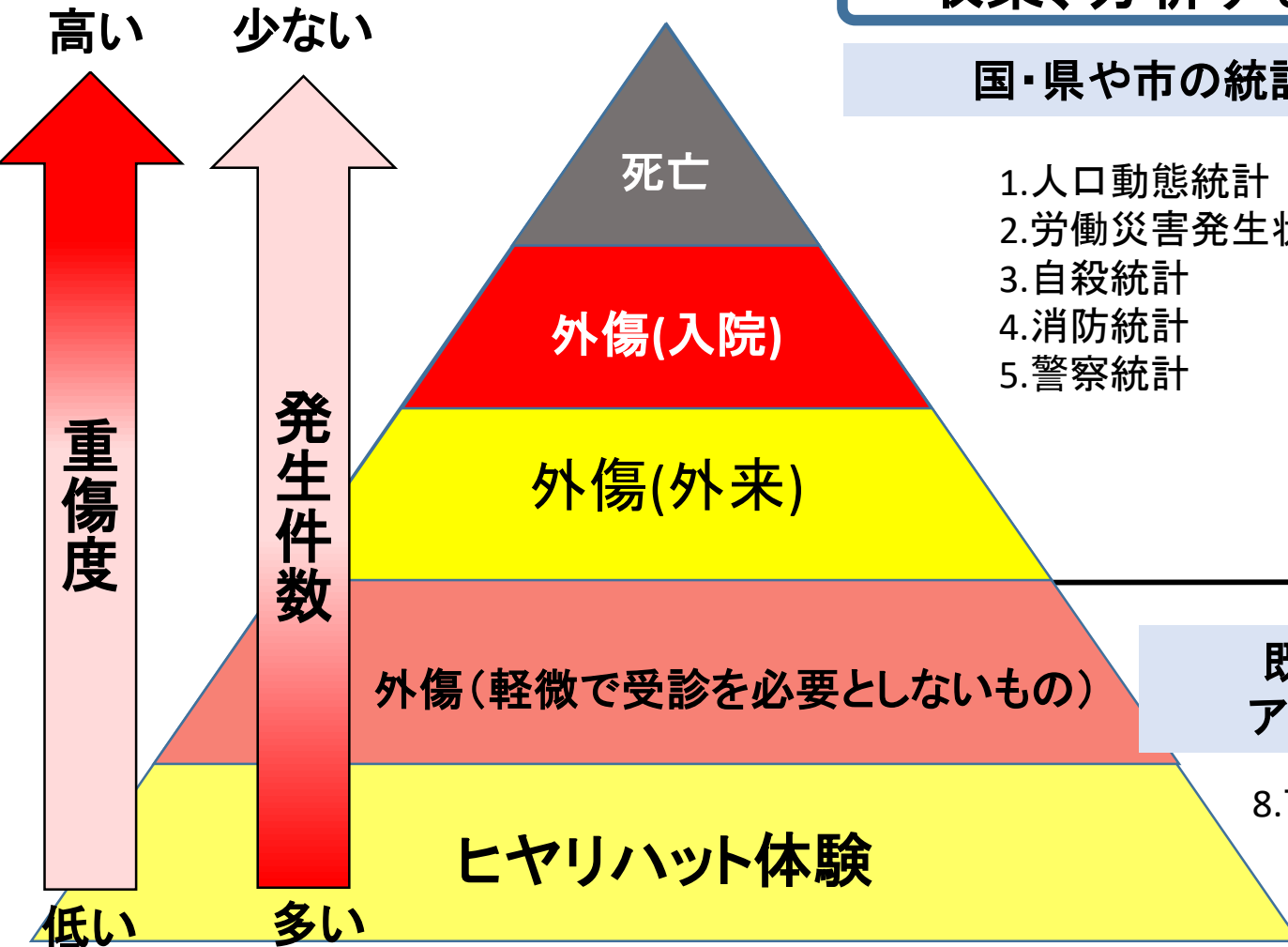
けがや事故の全体像を把握

収集、分析するデータ

図7

国・県や市の統計データで分析

- | | |
|------------|-----------|
| 1.人口動態統計 | 6.交通白書 |
| 2.労働災害発生状況 | 7.地域安全白書 |
| 3.自殺統計 | 8.救急搬送データ |
| 4.消防統計 | 等 |
| 5.警察統計 | |



既存のデータがなく
アンケートにより調査

- 8.市民意識調査(アンケート)



対策委員会で使用している主な外傷データとその更新頻度

表3

更新頻度	統計等の名称	交通安全	子どもの安全	高齢者の安全	自殺予防	防犯	防災・環境安全
毎年	1 人口動態統計			●	●		
	2 労働災害発生状況						●
	3 消防統計			●			●
	4 警察統計	●	●	●		●	
	5 救急搬送データ	●	●	●	●	●	●
隔年	6 市民意識アンケート調査	●	●	●	●	●	●



表4

対策委員会で使用している外傷以外のデータとその更新頻度

実施頻度	統計等の名称	交通安全	子どもの安全	高齢者の安全	自殺予防	防犯	防災・環境安全
毎月	違法客引き、スカウト調査					●	
毎年	高齢者支援事業実施状況			●			
	高齢者虐待等相談件数			●			
	児童虐待相談対応件数		●				
	配偶者等暴力相談件数					●	



医療関係のデータ

～SDGs推進全世代健康都市圏創造事業～

郡山市と福島県立医科大学との共同研究成果の活用

2021年2月12日 福島県立医科大学とSDGs推進に関する包括連携協定締結

郡山市が提供する医療・介護情報等を県立医科大学が多角的に分析し、その結果を基に市が健康寿命の延伸と健康格差の縮小を図るとともに、セーフコミュニティ事業と連携し安全・安心で全世代が健康で暮らせるまちを目指す。

No	データ名称	No	データ名称
1	国民健康保険レセプト	12	肺がん検診
2	特定健診	13	大腸がん検診
3	後期高齢者医療制度被保険者情報	14	乳がん検診
4	後期高齢者医療制度レセプト	15	子宮頸がん検診
5	後期高齢者医療制度健診	16	乳幼児健康診査(1歳6か月、3歳)
6	介護認定情報・認定調査情報	17	高齢者にやさしい住まいづくり助成事業参加者
7	主治医意見書	18	あさかの学園大学名簿
8	要介護認定リスト	19	高齢者健康長寿サポート事業利用者
9	介護予防把握アンケート	20	通いの場(いきいき百歳体操)参加者・体力測定データ
10	介護保険レセプト	21	骨粗鬆症検診
11	胃がん検診		

分析結果を
参考にする



表6

回	年月日	主な内容
1	2018年 8月20日	<ul style="list-style-type: none"> ●対策委員会の対策の検討状況確認 ●対策委員会が必要としているデータの確認 ●第3回地域診断の実施方法を協議
2	2019年 5月31日	<ul style="list-style-type: none"> ●第3回地域診断の分析 ●対策委員会の活動状況の分析 ●セーフコミュニティ賞創設に係る協議
3	2019年 11月12日	<ul style="list-style-type: none"> ●セーフコミュニティ賞の審査
4	2020年 7月30日	<ul style="list-style-type: none"> ●第4回地域診断に係るアンケート調査内容の検討
5	2020年 10月29日	<ul style="list-style-type: none"> ●セーフコミュニティ賞の審査



6 認証後の取組

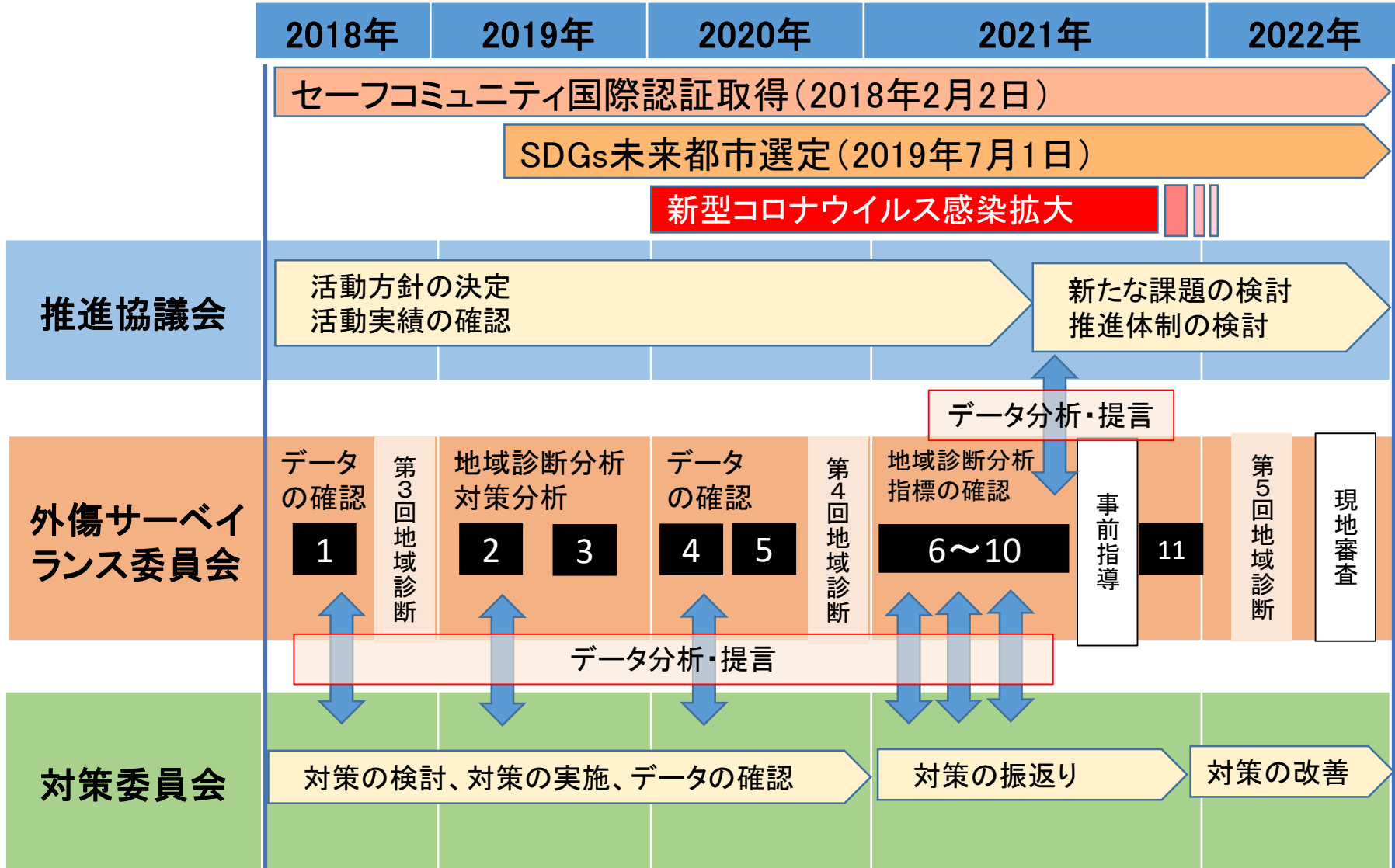
表7

回	年月日	主な内容
6	2021年 4月14日	<ul style="list-style-type: none"> ●対策委員会の活動内容の確認 ●第4回地域診断の分析
7	2021年 5月24日	<ul style="list-style-type: none"> ●対策委員会の指標の確認
8	2021年 8月19日	<ul style="list-style-type: none"> ●対策委員会の取組の評価方法の確認
9	2021年 10月20日	<ul style="list-style-type: none"> ●推進協議会の推進体制、新たな課題の検討
10	2021年 11月9日	<ul style="list-style-type: none"> ●セーフコミュニティ賞の審査
11	2022年 3月18日	<ul style="list-style-type: none"> ●第5回地域診断に係るアンケート調査内容の検討



6 認証後の取組

図8





6 認証後の取組

① 地域診断に向けて実施する市民アンケートの見直し

【アンケートの対象】

個人アンケート 8,800人、世帯アンケート 4,000世帯

【質問の変更】

表8

2014年(初回)	2018年～
<p>個人アンケート 16問 基本属性、地域への愛着、日常の外出手段、不安なこと、健康状況など</p>	<p>個人アンケート 34問 基本属性、交通安全、子ども、高齢者の安全、自殺、防犯、防災に関すること</p>
<p>世帯アンケート 18問 基本属性、地域活動への参加状況、家庭のけがの状況、災害対策など</p>	<p>世帯アンケート 10問 基本属性、家庭でのけがの状況、防犯、防災に関すること</p>

改善点

- 各対策委員会が取り組む重点課題と結びつくように質問を整理
- 経年で比較するための質問を設定



6 認証後の取組

① 地域診断に向けて実施する市民アンケートの見直し

【市民アンケートの課題】

- 世帯と個人に分かれていることから、回答数に差がある
- アンケートの対象者数が多く、さらに世帯と個人に分かれているため発送や集計が複雑

【2022年実施市民アンケート】

表9

- 質問内容は維持し、対象者を個人に限定することで、効率化を図る

アンケートの対象	質問内容
個人アンケート 4,000人	個人アンケート 49問 基本属性、家庭でのけがの状況、交通安全、こども、高齢者の安全、自殺、防犯、防災に関すること

2020年からインターネットによる回答を導入

- 今後も、より充実したデータを効率的に収集するため、見直しをしながら実施していく



② 地域診断の分析に基づいた対策委員会への提言

【各対策委員会への提言】

表10

全委員会共通	<ul style="list-style-type: none"> ●各成果指標の半分が数値が表示されていないので、対策の成果を検証するために、これまでの対策による市民の意識と行動の変化を把握する手法を検討すべき。 ●地域診断では、コロナの影響がプラスにもマイナスにも出ているため、データの推移を注意深く見ていく必要がある。 ●対策の検証のために実施するアンケートは、インターネットで行うべき。
交通安全	<ul style="list-style-type: none"> ●交差点事故の件数のほかに、事故の内容を調査すべき。 ●対策委員会でハード対策を実施することは困難なため、交通事故の多い交差点の構造改善に向けては、事故原因や交通量などを基に道路管理者への提言を行うべき。
高齢者の安全	<ul style="list-style-type: none"> ●今後、ますます高齢者が増加し、高齢者の安全が社会問題化することが予想されるため、介護予防教室の評価方法は、高齢者の負傷者数だけでなく、高齢化率を考慮し成果を見るべき。



② 地域診断の分析に基づいた対策委員会への提言

【各対策委員会への提言 前頁の続き】

表11

自殺予防	<ul style="list-style-type: none"> ●相談窓口を知らない市民の割合が多いため、啓発物がどの程度利用されているか検証すべき。 ●悩んでいる人にどのように情報を届けるか検討すべき。 ●コロナの影響により自殺者の増加が予想されるため、相談窓口の強化についてもデータを出せるようにすべき。
防災・環境安全	<ul style="list-style-type: none"> ●コロナの影響で講座等の開催が困難になっているが、自然災害はいつ起きるか分からないので、オンラインによる講座を積極的に行うべき。



③ 提言に対する対応

【各対策委員会の対応】

提言

●地域診断ではコロナの影響がプラスにもマイナスにも出ているため、データの推移を注意深く見ていく必要がある。

郡山駅周辺の滞在人口の動向 2019年同週比の推移

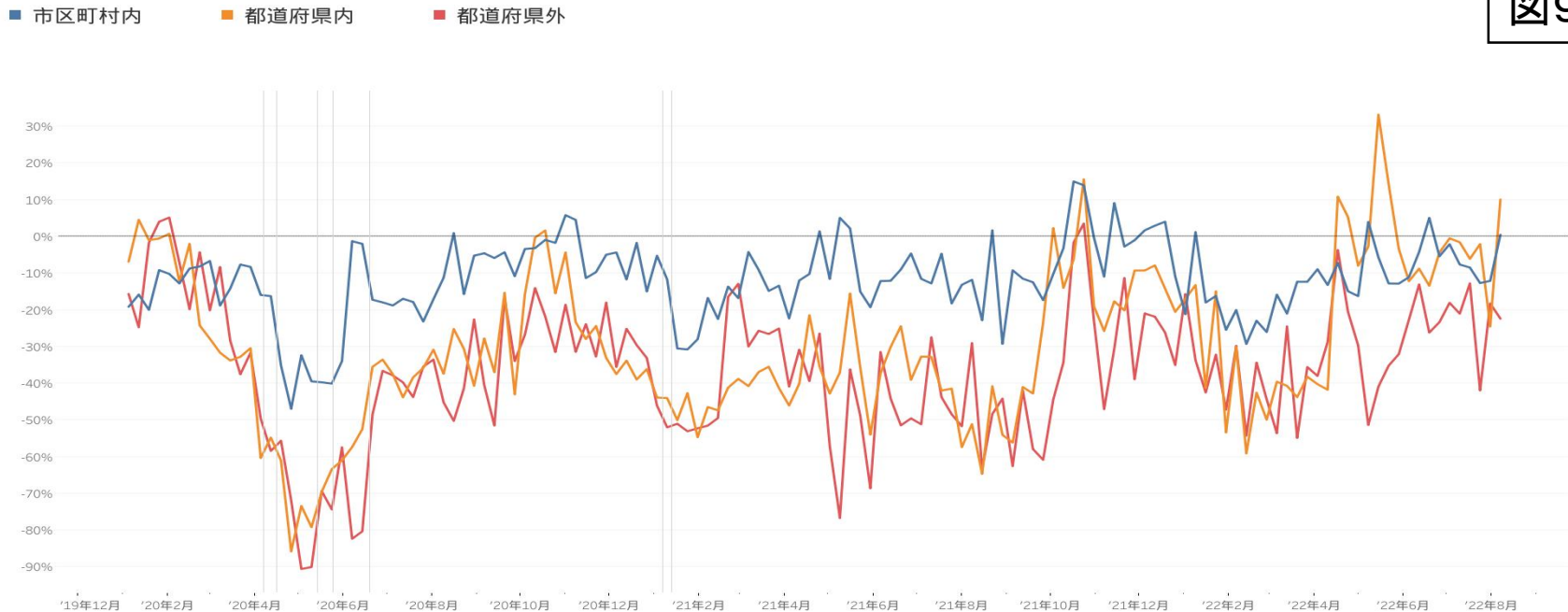


図9

対応
コロナの影響を注視していく。



③ 提言に対する対応

【交通安全対策委員会の対応】

表12

長期成果指標	2016年	2017年	2018年	2019年
交差点での事故件数	628件	680件	583件	594件

提言

- 交差点事故の件数のほかに、**事故の内容を調査**すべき。
- 対策委員会でハード対策を実施することは困難なため、交通事故の多い交差点の構造改善に向けては、事故原因や交通量などを基に**道路管理者への提言**を行うべき。

対応

- 郡山警察署に依頼し、2019年の交差点事故594件について事故内容、事故状況を調査
- 事故が多い交差点の現地調査を行い、道路管理者への改善点を提案

提案により交差点2か所を改修

③ 提言に対する対応

【交通安全対策委員会の対応】

図10



交通事故防止に関する
アンケートのお願い



生徒の皆さんにお知らせしたアンケートの回答は、
こちらのQRコードからお願いします。



アンケート締切日 令和4年9月12日(月)

問合せ先：交通安全対策委員会（郡山市市民部セーフコミュニティ課）
〒963-8601 福島県郡山市朝日一丁目23番7号
電話：024-924-2151 / F A X：024-921-1340
メール：safecommunity@city.koriyama.lg.jp



③ 提言に対する対応

【高齢者の安全対策委員会の対応】

提言

●今後、ますます高齢者が増加し、高齢者の安全が社会問題化することが予想されるため、介護予防教室の評価方法は、高齢者の負傷者数だけでなく、**高齢化率を考慮し成果を見るべき。**



対応

高齢者人口との割合から成果指標を見ることとした。

高齢者の安全対策の長期成果指標の見直し

表13

		2016年			2017年			2018年			2019年			2020年		
高齢者人口		65～79歳	80～89歳	90歳～	65～79歳	80～89歳	90歳～	65～79歳	80～89歳	90歳～	65～79歳	80～89歳	90歳～	65～79歳	80～89歳	90歳～
		54,337人	19,439人	4,155人	55,455人	19,683人	4,483人	56,677人	20,085人	4,747人	57,765人	20,156人	5,012人	58,824人	20,018人	5,376人
転倒	一般負傷による救急搬送者数	402人	466人	150人	431人	470人	204人	461人	485人	195人	477人	507人	236人	445人	454人	221人
	高齢者人数との割合	0.74%	2.40%	3.61%	0.78%	2.39%	4.55%	0.81%	2.41%	4.11%	0.83%	2.52%	4.71%	0.76%	2.27%	4.11%
窒息	不慮の窒息による死亡者数	7人	7人	0人	7人	11人	9人	7人	12人	8人	7人	9人	7人	—	—	—
	高齢者人数との割合	0.01%	0.04%	0.00%	0.01%	0.06%	0.20%	0.01%	0.06%	0.17%	0.01%	0.04%	0.14%	—	—	—



③ 提言に対する対応

【自殺予防対策委員会の対応】

自殺の相談窓口を知らない人の割合 42.2% (2020年地域診断)

提言

- 相談窓口を知らない市民の割合が多いため、啓発物がどの程度利用されているか検証すべき。
- 悩んでいる人にどのように情報を届けるか検討すべき。
- コロナの影響により自殺者の増加が予想されるため、相談窓口の強化についてもデータを出せるようにすべき。

対応

- 相談窓口周知のリーフレット
働く場と教育機関それぞれに配布啓発を強化
インターネットアンケートにアクセスできるQRコードを付け意識調査を実施
- ショッピングセンターで行う自殺予防啓発のパネル展
通りかかった人がシールを貼って回答するアンケートを実施

自殺の相談窓口を知らない人の割合 30.3% (2022年地域診断)

③ 提言に対する対応

【防災・環境安全対策委員会の対応】

表14

活動指標	2017年	2018年	2019年	2020年
防災学習の実施回数	21回	27回	39回	4回

提言

- コロナの影響で講座等の開催が困難になっているが、自然災害はいつ起きるか分からないので、**オンラインによる講座**を積極的に行うべき。

対応

- 防災の出前講座
申込者のインターネット環境が整っている場合には、**オンラインにより実施**
- 防災訓練
2021年は、コロナ対策として、災害時の情報収集訓練を中心に、**オンラインによる防災訓練を実施**



中学校でのオンライン講座 27



④ 推進協議会の推進体制の検討

表15

主な重点課題	認証時と直近のデータ比較	予見可能性の高い課題
こどもの虐待	郡山市の虐待相談件数 2017年 44件 → 2021年 23件	コロナによる生活の変化 こどもの孤立
高齢者の転倒	転倒で死亡した高齢者 2017年 14人 → 2020年 21人	加齢による虚弱、体力低下 高齢者一人世帯の増加
認知症	高齢者の認知症の割合 2015年 10.7% → 2022年 9.6%	人間関係の希薄 高齢者の孤立
自殺	自殺の相談窓口を知らない人の割合 2016年 64.9% → 2022年 30.3%	コロナによる生活の変化 孤立・孤独
DV	郡山市のDV相談件数 2017年 68件 → 2021年 72件	コロナによる生活の変化 人間関係の希薄
防災	地域の防災活動に参加したことがない人 2018年 75.3% → 2022年 77.1%	人間関係の希薄 気候変動による大災害



⑤ セーフコミュニティ賞の審査

図11



交通安全鼓笛隊パレードパンダナ贈呈式
＜安積地区交通対策協議会＞



子どもの見守り活動
＜大島地区防犯協会＞



登下校時の子どもの安全確保
＜小山田地区防犯協会＞



コロナ禍でのテント村活動
＜郡山北地区交通安全協会熱海支部＞



「レター作戦」思いを込めたハガキを持って
＜郡山北地区交通安全協会多田野支部＞



小学校の「まち探検」も見守ります
＜郡山市東部婦人会＞



保健委員会による「けが予防ビデオ」
＜郡山市立薫小学校＞



危険箇所へストップマーク貼付
＜郡山地区交通安全協会開成支部＞



外出を控えている高齢者の方へ
フレイル予防を呼びかけ
＜安積地区社会福祉協議会＞



⑥ コロナ禍におけるセーフコミュニティ活動

新型コロナウイルス感染防止や、感染した場合の重症化予防にもつながる重要なセーフコミュニティ活動として、特に高齢者にとって必要な「体力づくり」を啓発するメッセージを郡山市公式YouTubeで配信

郡山市公式YouTube

https://youtu.be/rM54NX_r1fE



図12

手話通訳士

総合南東北病院の寺西でございます。

字幕対応



7 成果と課題

成果

- ①データに基づく重点課題と活動指標の設定
- ②市民の意識と行動の変化を把握する成果指標の設定

課題

- ①地域の活動におけるS+PDCAの定着
- ②セーフコミュニティ活動のDX化



8 今後の活動

① 各対策委員会が実施した対策の評価検証
及び改善策の評価



② 予見可能性の高い将来課題に対応可能な
推進協議会推進体制の検討における
データの収集と分析



**セーフコミュニティ活動を通じて持続可能な
社会の実現、SDGsの達成を目指す**



ご清聴ありがとうございます。

外傷サーベイランス委員会